

# 家、世の果ての……

—現代演劇レトロスペクティヴー 極東退屈道場+水の会『家、世の果ての……』(初演:劇団綺崎(1980年)) 作/如月小春 演出/林慎一郎(極東退屈道場)

出演 原 真、得田晃子、井尻智絵(以上、水の会)、北村守(スクエア)、うべん、後藤七重、小坂浩之(KDC)、片桐慎和子、小中太(子供姪人)、猿渡美穂、中元志保(Fellow House)、福田尚子、安武剛(トイガーデン)

日時 2010年2月26日(金) 19時30分開演 | 27日(土) 15時開演 / 19時開演 | 28日(日) 15時開演

AI・HALL



平成21年度文化庁芸術拠点形成事業

# 極東退屈道場+水の会

## 『家、世の果ての……』 (初演：劇団綺崎 (1980年))

作/如月小春 演出/林慎一郎 (極東退屈道場)

出演 原真、得田晃子、井尻智絵 (以上、水の会)  
北村守 (スクエア)、うべん、後藤七重、小坂浩之 (KDC)、片桐慎和子、  
小中太 (子供巨人)、猿渡美穂、中元志保 (Fellow House)、福田尚子、安武剛 (トイガーデン)

日時 2010年2月26日(金) 19:30 全席自由席 (開演の1時間前より受付にて整理券配布)  
27日(土) 15:00 / 19:00 開演の1時間前より受付開始。30分前より開場。  
28日(日) 15:00

会場 AI・HALL  
伊丹市立演劇ホール 〒664-0846 兵庫県伊丹市伊丹2-4-1 [JR伊丹駅前]

料金 前売: 2,500円 (当日3,000円)  
学生: 2,000円 (要学生証) \*ネット・電話予約のみ  
ペア: 4,500円 \*ネット・電話予約のみ  
2010年1月9日[土] 発売開始

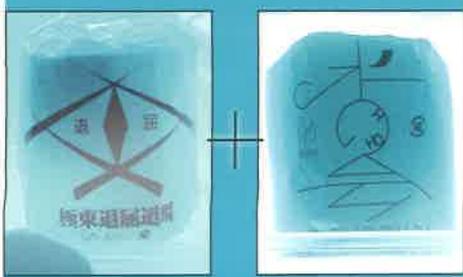
取り扱い 電子チケットぴあ 電話: 0570-02-9999 (Pコード: 400-228)  
Web: <http://t.pia.jp/> \*一般前売りのみ  
ネット予約 <http://taikutsu.info/>  
<http://mizunokai.sakura.ne.jp/> } \*下のQRコードからもご予約いただけます。  
(万一読み取れない場合はメールでご予約ください)  
電話予約 アイホール 072-782-2000



問い合わせ access@mizunokai.sakura.ne.jp  
アイホール: 072-782-2000

スタッフ 舞台監督/塚本修 (CQ) 協力 スクエア、KDC、トイガーデン、子供巨人  
舞台美術/柴田隆弘 (株)LOG Fellow House、CQ、(株)LOG  
照明/魚森理恵 (GEKKEN staff room) GEKKEN staff room、ウイングフィールド  
音響/あなみふみ (ウイングフィールド) iroNic ediHt DESIGN ORCHESTRA  
衣装/権田真弓・大野知英 (iroNic ediHt DESIGN ORCHESTRA) 尾崎商店、シバエエンジン  
制作/尾崎雅久 (尾崎商店)・片山加菜  
宣伝美術/清水俊洋 主催 (財)伊丹市文化振興財団・伊丹市  
イラスト/邊見葵里 企画製作 AI・HALL  
写真撮影/石川隆三

〈作者プロフィール〉 如月小春 東京都出身  
東京女子大学の劇団「綺崎」で活動を始め、1979年「ロミオとフリージアのある食卓」で注目され、『家、世の果ての……』、『工場物語』など、現代の都市に生きる人間の姿を先鋭的な手法で描き出した作風は、各界から高い評価を受けた。1983年、劇団「NOISE」を立ち上げ、『DOLL』、『MORAL』などを上演。音楽・映像など他分野とのコラボレーションによるパフォーマンスが人気を集めた。また数多くの著書を出版した他、テレビ番組の司会者・コメンテーターとしても活躍。アジア女性演劇会議実行委員長、国際交流基金運営審議会委員、兵庫県立こどもの館演劇活動委員、立教大学・桐朋学園短大講師などを務めた。2000年逝去、享年44。



はな子が犬を連れておつかいにでかけると「スーパー不夜城」が見下ろしていた。  
うすくれないの地図を頼りに、人混みをかき分けかき分け、道行きを急ぐ一人と一匹。  
やがて、トーキョーが昨日と同じメロドラマの中に暮れるころ、錆止めの朱い階段上のアパートから、百合子、さらわれる。  
残された紙切れ一片。  
『家、世の果ての……』  
境界にある氷漬けの食肉工場で少女はつぶやく。  
「ソレハ ユルギナキ 全体、絶対的ナ広ガリヲ 持ち 把握ヲ許サズ、息ツキ、疲レ、蹴オトシ、——ソコデハ 全テガ置キ去リニサレテ、関ワリアウコトナシニ ブヨブヨト 共存スルノミ。個ハ 境界ニアリ、タダ 境界ニアリ、楽シミハアマリニ 稚ナクテ ザワメキノミガ タユタイ続ケル —— コンナ夜ニ 正シイナンテ事ガ 何ニナルノサ。」  
1980年、初演。  
ようやくものごころついた私は、まだ子供だった。  
田舎で生まれた私のところに、それは遅れてやってきた。  
まるで預言書のようなこのテキストは、子供の私達の未来を示唆し、そして今、アラサーの私達は、その未来をまたいだ。  
「関ワリアウコトナシニ ブヨブヨト 共存スル」地平に向かい、私達は決意も、覚悟も、信念も、ソレゾレ、テンデバラバラに一步一步歩み続ける。  
ふと肩をたたく声が聞こえる「コノマンマジヤア、マルデ駄目ダア」  
その声にニコニコと耳を傾け、私達はまた歩き続ける。

(林慎一郎/演出)